



ツクシガシワ (ガガイモ科)

2007.06.21 23:23

## ツクシガシワ (ガガイモ科) (絶滅危惧種) 愛媛県 三本杭

落葉広葉樹林のやや湿った林床などに生育する多年草。茎は高さ50~100cm、無毛または微毛があり、茎の先はツル状に伸びる。

葉は茎の途中に数対つき、広楕円形で長さ12~25cm。茎の上部の葉は急に小さくなる。花は暗紫色で径8~10mm、内側に縮れた白毛がある。果実是对生する袋果で長さ5~8cm。花期は7~8月

**名前の由来：**筑紫地方に生育する柏に似た葉をもつ植物の意。



ゲンノショウコ (フウロソウ科)

## ゲンノショウコ (フウロソウ科) 愛媛県 皿ガ嶺

田畑の雑草やあぜ道、山の草原や広場に生える多年草。茎の大部分は地をはい、草全体に下向きの毛が生えている。葉は長柄があり対生、形は掌状に3~5深裂、巾3~7cm程度。

花は夏から秋にかけて、枝先および葉の脇より長い花軸を出して2~3個つける。紅紫花種は西日本に、白紫花種は東日本に多く見られる。

**名前の由来：**古くから下痢止めの妙薬とされていて、古書に「一味用いて痢疾を療するに効あり、故にゲンノショウコと言う」という記述がある。そのことから「現に良く効く証拠」に由来している。



イワギキョウ (キキョウ科)

2006.09.05 18:04

## イワギキョウ (キキョウ科) (絶滅危惧種) 北アルプス 針ノ木岳

北海道～中部地方の高山の砂礫地や草砂礫地や草地に群生する。高さ10cmほど。葉は束生で細長く1.5～3cm。花期は7～8月。草丈の割には大きな青紫色の花を横向きに咲かせる。青紫色の花冠は、長さ2～2.5cmで4分の1程度5裂する。本種とよく似たチシマギキョウの花には繊毛が生えているが、本種には生えていないので見分けがつく。

**名前の由来：**中国名「桔梗」をそのまま日本語読みして「きちこう」と呼ばれていたが、言いやすく「ききょう」と変化した。

なお、桔梗の語源は根が硬直して固いということ。



タマゴタケ (テングタケ科)

## タマゴタケ (テングタケ科) 長野県 大町市 佐野坂

夏～秋、シイ・ナラ・ブナ・モミなどの樹下に生え、菌根をつくる。幼菌が成長すると、は白色卵形の外被膜の上部が破り、赤～橙赤色の傘が現れる。傘は開けば径 6～18 cm、周辺に放射状の溝線をあらわす。ひだは黄色。柄は長さ 10～20 cm、黄色の地に帯赤色のだんだら模様があり、上部に橙黄色のつば、基部に白色のつぼがある。美しくしかも美味しい食菌で、汁物・鍋物などに用いると、極上のうま味を楽しめる。

**名前の由来：**傘が出る前の幼菌(黄色)は白色の外被膜におおわれ、全体の形が卵形であるところから命名された。



## ハヤチネウスユキソウ (キク科) (絶滅危惧種) 岩手県 早池峰山

岩手県 早池峰山の高山帯、それも蛇紋岩地のみで生育する固有種。

日本に自生しているウスユキソウの仲間では大型(草丈10~20cm)で、ヨーロッパ アルプスのエーデルワイスに最も似ている花である。

花のように見える上の白い部分は、苞葉と呼ばれる葉で、花は中央の黄色い部分である。

**名前の由来：**早池峰山にだけ自生している、上部の葉がうっすらと雪をかぶったような白い綿毛に覆われている花という意味。

※ 属名 *Leontopodium* は、「ライオンの足」という意味で、真ん中が丸く持ち上がり、苞葉が指(爪)を広げたように見えるところからつけられた。



## ヒマラヤの青いケシ (学名：メコノプシス・グランディス)

登山家に「天上の妖精」と呼ばれる<幻の青いケシ>

皿ガ嶺 1270.5mの中腹 (松山市中心部から車で40分くらいの所) に風穴があり、そこから吹き出る冷たい風(常時20度)を利用して栽培している。

花色は、土壌の性質(酸・アルカリの度合い)によって、青～淡い赤紫色のゆるやかな変化が見られる。

原産地はヒマラヤ山脈(チベット)の標高4～5,000m。

草丈1.5m、花の直径≒10～15cm。

花言葉：「底知れぬ魅力を湛えた」 英名：Tibetan blue poppy